2015年度第1回 日本学連幹事会 議事録

開催日時: 2015年（平成27年）6月6日（土）
開催会場：中多屋旅館（茨城県東茨城郡）

ー議題ー

1. アイプリオ社のスポンサー申請について
2. 学連発足３０周年行事について
3. 学連会計締め日の変更について
4. 地図会計について
5. 新機軸事業について
6. インカレ表彰、閉会式の短縮、シード選手紹介について
7. 目安箱について
8. インカレミドル競技者配分規約の作成
9. インカレロングの競技者数について
10. インカレ一般クラスのすみわけについて
11. 昨年度決算報告
12. 広報部局員の配置について
13. 活動報告書「日本学生オリエンテーリング連盟概説」について
14. 技術委員会報告
15. 理事会報告
16. 各部局活動報告
17. 次回幹事会について

ー出席者ー（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
海老 成直	理事・インカレミドル・リレー担当	中央大学卒
齋藤 翔太	理事・地図会計担当	一橋大学卒
大西 康平	技術委員会委員長	京都大学卒
五味 あずさ	幹事長	金沢大学
村瀬 貴紀	副幹事長	筑波大学
大久保 宗典	会計	東京大学
築地 孝和	事業部長	神戸大学
田中 悠	広報部長	慶應義塾大学
新粥 文哉	事務部長	千葉大学

細 正隆	普及部長	東北大学
橋場 良太	渉外部長	東北大学
田口 茂樹	会計監査	岩手大学
田中 基成	会計監査	筑波大学
高橋 秀明	2014 年度広報部長	金沢大学
藤田 麻矢	北東学連幹事長	岩手大学
田中 求	北信越学連幹事長	金沢大学
小泉 知貴	関東学連幹事長	慶應義塾大学
石山 良太	東海学連幹事長	名古屋大学
松浦 友佑	関西学連幹事長	大阪大学
小柴 滉平	第 34 回筑波大学大会実行委員長	筑波大学

議事録作成：田中 悠(広報部長・慶應義塾)

この議事録において、特に断りが無い限り
学連　　日本学連
加盟員　日本学連の加盟員
の意味で使用することとする。
なお本文中、発言者等の敬称は省略した。

時間の無い方は各議題の (i)背景、(ii)議論の概要、(iii)幹事会としての結論 をお読み頂きたい。

1. アイプリオ社(1) のスポンサー申請について （担当 事務局 新粥）

ー背景ー

2014 年 3 月アイプリオ社の山本氏より、アイプリオ社の紹介と学連への支援の申し出があった。

ーアイプリオ社の目的ー

加盟員に対して、新卒・第二新卒の採用募集を行う。

加盟員に対して、インターンシップの募集を行う。

加盟員に対して、ビッグデータの提供を行う。

ーアイプリオ社の要望ー

① 加盟員に関するデータ収集及び加盟員採用のためのアンケートの実施。（個人情報含）

② 加盟員に対する働きかけ。（大会会場での広報ブース設置等）

③ スポンサー料に関して、学連側の要求額の提示。

ー議論の概要ー

アイプリオ社の支援の申し出に対して、学連としての回答を提示するために上記①から③の要望について検討した。今回はアイプリオ社の要望にどこまで応えるかを決定した。

ー議論内容と結論ー

① アンケート実施の要望にどこまで応えるか。（アンケート内容は個人情報を含むもの）

［個人の意見］

・「アイプリオ社が加盟員の個人情報を得るのを学連が手伝うのは正しい姿だろうか。」（理事 海老）

・「個人情報を提供する同意を各校から得るべきではないか。」（事務局 新粥）

・「アイプリオ社への就職に興味がある人からのみ個人情報を集めるのが筋ではないか。」（技術委員長 大西）

・「学生の意思を反映しないといけない。」（幹事長 五味）

・「会社紹介のパンフレットを作成して、興味を持った学生がエントリーする形が良いのではないか。」（会計 大久保）

・「回答任意のアンケートを学連が手伝うのが良い。任意であれば、個人情報を聞くことも良いのではないか。」（渉外部 橋場）

・「アンケート内容はアイプリオ社の方で用意してもらうということで良いだろう。」（幹事長 五味）

［幹事会としての結論］
加盟員全体から個人情報を集めることは厳しい。回答任意のアンケートならば、アイプリオ社が加盟員の個人情報を得ることを学連が手伝うことが可能。アンケート内容はアイプリオ社の方で考えてもらう。

② 加盟員に対する働きかけをどこまでするか。
［個人の意見］
・「アイプリオ社からのパンフレット等の情報を JOA ニュースのように流すのは現実的だろう。」（事務局 新粥）
・「大会でアイプリオ社の広報ブースを設けることや、広報ブースへの加盟員の参加を呼びかけることは難しくない。」（幹事長 五味）
・「そもそも協賛企業自体に対する加盟員の意識が薄い。加盟員に意識を向けさせるよう学連で働きかけを行う必要がある。」（事務局 新粥）
・「ブースの設置の負担は問題になるだろうか。」（幹事長 五味）
・「広報ブース担当者はアイプリオ社の方で出していただくので負担は少ないだろう。」（事務局 新粥）

［幹事会としての結論］
学連後援大会でアイプリオ社の広報ブースを設置し、加盟員への働きかけを行う。

③ スポンサー料をどのくらい要求するか。
［個人の意見］
・「スポンサー料は何に使うのか。まずは明確な用途を考える必要がある。」（理事 齋藤）
・「会計としては、スポンサー料が無くても問題なくやっていける。」（会計 大久保）
・「結構な額はもらえると思うので、用途としてはスプリントの赤字充填のような消極的な目的より、新しいことに使うのが良いと思う。今回のスプリントに関しては演出でスクリーンなど使うことを考えているので、演出費には使える。」（理事 齋藤）
・「広報ブースに関してのスポンサー料は、大会で広報ブースを担当するのが大会実行委員会である以上、学連の方でスポンサー料を決めることはできない。」（幹事長 五味）
・「ブースに関するスポンサー料は、学連が関わる必要はない。実行委員会側とアイプリオ社の間で直接やり取りしてもらえれば良い。」（事務局 新粥）
・「アイプリオ社にとって、加盟員の獲得を図る今回の事業がどれだけ価値のあるものかをアイプリオ社側で決めてもらい、それに応じてスポンサー料を決めてもらえば良い。その額を承認するかしないかを学連で判断すれば良い。」（理事 齋藤）

［幹事会としての結論］
スポンサー料に関しては、アイプリオ社側に額を提示してもらい、学連側で承認する形を取る方が良い。

(1) アイプリオ社 ： 米国ニューヨークに本社を構えるグローバルな金融情報会社。証券会社及び上場企業にデータベース、システム及び調査分析サービスを提供している。グローバルに約 1,200 人が働いている中堅企業であり、日本国内では現在 13 人が働く小規模なオフィスであるが、急成長している。日本国内では知名度が低いために新卒、第二新卒の採用に苦労している。（幹事会資料より）

2. 学連発足３０周年行事について
ー背景ー 学連発足 30 周年の昨年度、幹事会では記念行事に関して議論が持ち上がっていたが、結局特に何も行わなかった。 ー議論の概要ー 30 周年記念行事を行うべきだったかどうかについて幹事の意見を聞いた。また、節目となる 35, 40 周年に記念行事を行うかどうかについて検討した。
ー議論内容と結論ー ①30 周年記念行事を行うべきだったか。 ［個人の意見］ ・「昨年度議論に持ち上がっていながら 30 周年記念行事を行わなかった。30 周年記念行事をやったほうが良かったと思うか率直な幹事の意見を聞きたい。」（幹事長 五味） →やりたいという意見はなし。 ・「学生にはインセンティブが無い。これまで記念行事を行ってきたという下地が無い。」（理事 齋藤） ・「30 周年でやれることはあったか。」（幹事長 五味） ・「30 周年の記念品でも配れば良かった。」（広報部 高橋） ・「30 周年をインカレで押す手もあった。」（理事 齋藤） ・「スポンサー料で記念品を作るということはありではないか。」（事務局 新粥） ・「5 年に 1 度（節目ごと）にスポンサー料をもらっても意味が無いだろう。」（理事 齋藤） ［幹事会としての結論］ 学生側としては 30 周年記念行事をやる意義が見いだせないので、30 周年行事を行うべきだったとは考えていない。
②35, 40 周年記念行事を行うべきかどうか。 ［個人の意見］ ・「現役の意見を優先するのか、理事の方の主導で行っていくのかをはっきりさせると、ここで決議すべき問題かどうか自体変わってくる。」（幹事長 五味） ・「30 周年記念行事を何とかしたかったと思うならば、理事の方に話を上げてもらえればと思う。」（理事 海老） ・「理事の方から話があって、学生がやりたいと思えばやれば良い。」（理事 齋藤） ・「そもそも何周年ということは意識した方がいいことなのか。」（幹事長 五味） ・「何かやろうという機運があって、そのこじつけみたいなものが周年行事。何かやろうと

いう風になればやれば良いこと。義務感でやるものではない。」（理事 齋藤）

［幹事会としての結論］
学生の方から何かやろうという機運が高まった時に記念行事を行えば良く、無理に記念行事をする必要はない。今のところ 35, 40 周年記念行事を行うことは考えていない。

3. 学連会計締め日の変更について
ー背景ー 従来学連の会計は個人の信用に任せていた面が強く、2011,12 年度に至っては決算報告すら行われず、不明金を出す事案まで発生した。このような問題を引き起こさないために、会計の体制を変える一案として会計締め日の変更案が挙げられた。 ー会計締め日変更の具体案ー 現在学連会計は 3 月締めで、年度決算報告は次年度初めの学連総会で行われる。会計担当者が退任した後で決算報告をする形となり、決算報告が担当者の責任外となり得ることが問題とされている。会計を 12 月締めに変更すれば、3 月の学連総会において担当者の責任の元で決算報告を行うことができる。 ー議論の概要ー 会計の 12 月締め案は理事から持ち上がった話であり、学生として締め日を変更することが良いかどうか検討を行った。
ー議論の内容と結論ー 会計の締め日変更に関して意見はあるか。 ［個人の意見］ ・「締め日の変更はあくまで理事の方からの案であって、今急に変えるのはどうなのかという問題もある。ただ、メリットが大きいのであれば今変えても良いとは思う。」 （理事 齋藤） ・「実務上 3 月締めに問題があるわけではなく、3 年前の問題があったので（問題が起きにくい体制等を）考えなくてはならないのではないか、という意図で 12 月締めが提案された。会計、会計監査がしっかりしているのであれば問題があるわけではないと思う。」 （理事 海老） ・「3 年前のような問題が起こらないように三役、会計、会計監査がどこまで意識を持ってやっていけるかが重要。12 月締めの案は、このような案もあるというので検討してもらえるだけで良い。一番良く分かっているのは会計なので、ほぼ会計の意見を通して良いとは思う。」（理事 齋藤） ・「会計としては、3 月締めも 12 月締めも慣れの問題である気がする。引き継ぎ後に関係ない人が次年度わざわざ総会に行くのは面倒な部分もある。また、12 月締めの場合に 1 月から 3 月の会計がずれるので引継ぎが大変。」（会計 大久保） ・「会計の締めと実際に動いている年度がずれるのは基本的にあり得ないことではある。」 （理事 海老） ・「（3 月締めでも）年度が終わる前までに、できるところまでは決算を出せば良いのでは。

四半期とかにまとめて決算を出すことも可能だろう。」（技術委員長 大西）

・「年度初めの幹事会に前任の会計担当者が参加できれば(3 月締めでも)問題は無いと思う。参加できなくとも現会計担当者なり幹事長なりが代わりに報告できる形になっていれば良いとは思う。会計監査が働けば良い話でもある。」（会計 大久保）

・「引き継ぎの時点で年度決算に関する情報共有をしっかりするのが前提。3 年前の問題に関しては、引継ぎの時点で情報共有がなされてなかったと思うし、会計監査自体機能していなかったと思う。」（理事 齋藤）

・「締め日を変えるというよりは、会計、会計監査等に意識を持たせ続けることが問題。」（幹事長 五味）

・「今後どのように意識を続けていくか考えていく方が建設的。」（理事 齋藤）

［幹事会としての結論］

根本的には年度決算についていかにうまく引継ぎを行うか、不正が起きないよういかに意識を持ち続けるかが問題であるので、今年度会計引継ぎまでに引継ぎの仕方を見直す。今のところ会計は 3 月締めから変更する予定はない。

4. 地図会計について（担当 副会長 山川）
ー背景ー 学連が保有する資産を基にして外部業者に地図作成を委託し、学連名義の地図を作成するという地図事業が現在展開されている。委託業者(現在はヤマカワオーエンタープライズ)から提出された事業計画書及び見積書について、学連が承認した場合に委託契約が成立することとなっている。(詳しくは「日本学生オリエンテーリング連盟の地図の運用に関する規約」を参照。) ー報告内容ー 2015 年度関東学連ロングセレクション及び第 1 回 KOLC 大会に関する地図事業見積について報告した。また、業務委託管理契約書の案を提示した。 ー議論の概要ー 地図事業見積報告の際に、山川氏が学連規約に則った地図事業の運営を行えていないことが分かり、そのことに対し質問、意見が出された。地図事業見積書の承認は本幹事会では行われなかった。
ー議論の内容と結論ー 地図事業の運営に対する質問と意見。 ［個人の意見］ ・「規約に書かなかったことも悪かったが、KOLC 大会についての地図事業見積書を幹事会当日に出されても検討のしようがない。幹事会の事前に出してもらわないと(幹事会で承認を取る)仕組み自体成り立たない。」(理事 齋藤) ・「そもそも地図会計担当理事(齋藤理事)としては事前に話はあったのか。」(技術委員長 大西) ・「話はあったが、大会の時期的に本幹事会で承認を取らなければならないのに幹事会当日に見積書を出されるのはおかしい。いつ調査を行う予定なのか。」(理事 齋藤) ・「もう始めている。」(副会長 山川) ・「調査をもう行っているのであれば、(20 万円を超える事業については)3 月の幹事会で承認を取っていないといけないのでおかしい(規約で決めたことに反している)。調査を始めてしまった以上は、地図事業見積を今から検討しても意味が無いので後追いで 9 月に承認するしかない。」(理事 齋藤) ・「3 月の幹事会で山川氏はどこかが大会開催するという言い方はされていたが、KOLC が大会を開催するとは明言していない。」(幹事長 五味) ・「KOLC の方もその段階では決めかねていたという理由もある。」(関東学連幹事長 小泉)

・「(3 月の段階では決定ではなかったので)6 月の幹事会で見積書を出すと言ってはいたが。」(副会長 山川)
・「後になって見積書を出すこと自体が良くない。地図運営に関する規約も走り出しで(不十分な部分等が)あるが、承認前に着工しないでほしい。幹事会の 1 か月前までには書類を提出するといった期限を規約には明記しなければいけない。」(理事 齋藤)
・「KOLC 大会に関する様式 2 の書類で、地図代 1 枚 550 円というのは以前から決まっていたことか。」(技術委員長 大西)
・「以前の幹事会で地図単価 700 円、山川氏の売り上げ 150 円と決めたもの。(学連としての取り分が 550 円)」(副会長 山川)
・「地図事業の書類は予め幹事長や会計にくるものではなかったか。」(会計 大久保)
・「規約上は地図担当理事、会計に来ることになっている。」(理事 齋藤)
・「流れとしては、幹事会の前に地図会計担当理事、会計に地図事業の書類を送り、それを幹事会役員が事前に目を通して、幹事会で検討・承認する形。」(理事 齋藤)
・「KOLC 大会以降の地図事業については、事前に予算をだしてもらえるということで良いか。」(会計 大久保)
・「山川氏には事前に会計、地図会計理事に見積書を出すようにお願いする。」
(理事 齋藤)

[幹事会としての結論]
2015 年度関東学連ロングセレクション及び第 1 回 KOLC 大会に関する地図事業見積書ついては、9 月の次回幹事会で後追い承認とする。業務委託管理契約書についても 9 月に検討を行う。また、地図事業見積書の事前提出については山川氏に徹底してもらう。

5. 新機軸事業について（担当 筑波大学 小柴）
ー背景ー 独自の地図調査によらず地図事業を利用して大会を開催する新機軸事業において、地元渉外に関しての問題点が生じている。筑波大学から、これらの問題点を踏まえた取り決めを学連の方で作ってほしいとの提案があった。 ー地元渉外の問題点ー （幹事会資料より） ・新機軸事業の地元渉外に関して、学連の取り決めが存在しない。 ・地元渉外を競技会の開催者が行った場合、その経費を開催者が負担している。 ・地図を保有するのは学連であるが、地元渉外が開催者の名義で行われている。 ー提案の内容ー （幹事会資料より） 筑波大学から次の 7 点を含む取り決めの作成を提案された。 ①地元渉外を誰がどのように行うか。 ②地元渉外の経費は誰が負担するのか。 ③地元渉外は誰の名義で行うのか。 ④新規やリメイクなどの場合によって①から③までの内容は変わるのか。 ⑤開催者が地元渉外を行う場合、どのような内容の渉外を行うべきなのか。 ⑥開催者が地元渉外を行う場合、学連と開催者はどのようなやり取りをするのか。 ⑦開催者が地元渉外を行う場合、開催者にとってどのような利点があるのか。 ー議論の概要ー 上記①から⑦について検討を行った。
ー議論の内容ー ①から⑦の項目に関しての意見。 ［個人の意見］ ・「渉外の業務は全て自分が握っている。どうやって周りに投げようかは悩んでいる。」（副会長 山川） ・「前から言っているが、山川氏しか知らないことがあまりにも多い。それを（他の人ができるように）引き継いでいくために規約やガイドラインは絶対にいるものなので、まず渉外でどのようなことを行うべきか明確に示してほしい。」（理事 齋藤） ・「普段の渉外の仕事をどう透明化してどう共有していくかが問題か。」（副会長 山川） ・「例えば、何か月の段階でこういうことをやっている、というようなことが分かるだけでも（渉外の仕事が）大分明確になってくる。その上で次に決めていかなければならない

ことは、学連がどこまで責任を持つか、どこまで人員を割くかということ。段階的に決める必要があるので、まず渉外活動が何かをはっきりさせないといけない。」
（理事 齋藤）

・「何をやっているかの情報を全部出してくれれば良い。」（技術委員長 大西）

・「日記を書いたらどうか。」（理事 齋藤）

・「文章として残っていればなんでも良い。」（幹事長 五味）

・「例えば、テレイン毎にどの人に連絡しなければならないといった風に、地域に即した具体的な渉外方法についての文章と、一般的な渉外の流れについての文章の両方が必要だと思う。それを分けて考えた方が良い。」（副幹事長 村瀬）

・「忙しいのであれば、形式には気にしないで渉外の仕事でやったことを羅列して、それを幹事でまとめていくくらいのことはできる。」（理事 齋藤）
→⑤の渉外方法を決めるために渉外の内容を明確にする必要があり、そのために山川氏に情報提供を求めることに決定。

・「（①に関して）地元渉外を開催者が行うのは社会経験等にもなりいいと思うが、現場では（誰が何を行うのか）明確な区分けが無く見えたので、きちっと決めた方がいいと思う。例えば、書類を書く、送るのは誰かなど。」（筑波大学 小柴）

・「書類を書く等は全て開催者が行うべきと思う。現地の挨拶はこれから考えなければならない。」（理事 齋藤）

・「地元渉外を学連が行うとしたとき渉外部が担当することになるが、実際には渉外に行くことは難しいので山川氏にお願いする部分は大きくなる。開催者よりも学連（渉外部）のほうが渉外を行いづらいというのは実情。基本的には開催者が行うのが現実的。」
（渉外部 橋場）

・「学連が行うのが難しいのであれば、開催者に渉外の計画書を提出してもらって学連がチェックし、実際に開催者が渉外に行った報告書を逐一チェックする形が良いか。」
（会計監査 田中（基））

・「日本学連として開催者が渉外を行う考え方もある。」（技術委員長 大西）

・「筑波大学が行ったことを学連に溜めていかなければ意味が無い。学連としての役割は筑波大学の次に（新機軸事業で）渉外を行う団体に対し、情報を提供してやりやすいようにしていくことだと思う。山川氏だけが持っている情報が多すぎて、学連として情報を提供できなかったり、渉外活動をコントロールすることができなかったりいていることが一番の問題。今回行ったことを学連に報告してもらって、それを次に生かすことが一番しなければならないこと。」（理事 海老）

・「結局⑤の内容が決まらないと何も始まらない。山川氏が渉外の仕事をまとめるのを待って①から⑦について検討、決定ができる。」（理事 齋藤）

・「山川氏が渉外の内容をまとめて、そのあと幹事会で検討し取り決めを行うのか。」
（筑波大学 小柴）

・「渉外のノウハウや開催者が行うべきもの等を学連が何かしらの形で示すことになる。今後新機軸事業で大会を行う大学は、学連が示したフォーマットに従えば良いという形にする。また、実際の開催者の渉外活動を学連の方でチェックした方が良い。」（幹事長 五味）
・「7 項目を取り決めに盛り込んでもらえるということで良いか。」（筑波大学 小柴）
・「盛り込むというよりは、7 項目について幹事会で検討し、必要なものは取り決めに盛り込む形にする。」（幹事長 五味）
→次回幹事会で 7 項目を検討することに決定。
・「KOLC 大会ではそれぞれ 7 項目がどのようになっているか幹事会の方では把握しているのか。恐らく山川氏と KOLC の間だけでのやり取りとなっていると思うが、それは幹事会として良いのか。」（筑波大学 小柴）
・「KOLC の渉外の現状を把握していないのが実情。筑波大大会の時もほとんど把握していなかった。学連の幹事会としては良くないこと。」（渉外部 橋場）
・「直近の KOLC 大会の渉外にはどう対応するのか。」（筑波大学 小柴）
・「本来、どのように渉外を行うなどといった情報は学連に報告されるべきもの。」（会計 大久保）
・「KOLC が今何をしているか幹事会として知った所で何もできないのが現実。」（幹事長 五味）
・「今回はどういう渉外をしたのか報告してもらえばいいかとは思っている。」（理事 齋藤）
・「現在検討している取り決めについて決定しない限り KOLC の活動に幹事会から何か言うことはできない。学連が KOLC に対してノウハウを提供する等ということが理想ではあるが、現時点ではできない。筑波大学同様に KOLC に情報提供を求めて以降の新機軸事業に生かしていくしかない。」（幹事長 五味）
・「理想的には KOLC が学連の渉外部に報告するのが良い。」（筑波大学 小柴）
・「KOLC の渉外状況も合わせて現状報告すれば良いだろう。」（副会長 山川）
→KOLC 大会については情報提供を求めることで決定。

ー結論ー
筑波大学が提示してくれた①から⑦の項目について検討するには、渉外の活動内容を明確にする必要がある。そのためにまず山川氏に普段の渉外業務の報告をしてもらい情報共有を行う。渉外の内容をまとめた後、次回幹事会で 7 項目の検討を行う。直近の第 1 回 KOLC 大会に関しては、現時点で学連の取り決めが不確定なため学連として果たせる役割はほとんどない。KOLC の渉外活動については情報提供を求め、以降の新機軸事業に生かす。

6. インカレ表彰、閉会式の短縮、シード選手紹介について

ー背景ー

2014 年度秋インカレ表彰式に関して、時間が長すぎるといった不満があったことから、2014 年度春インカレ表彰式では、写真撮影の時間を設けず短時間で表彰のみを行った。事業部では 2014 年度春インカレに関するアンケートを実施し、「2014 年度春インカレに関するアンケート結果」を公開した。

ーアンケート結果の概要ー

アンケートは以下の 3 項目について実施した。各項目について代表的な意見を挙げる。

①インカレ表彰式短縮に関するアンケート結果。

・時間が短縮され、間延びしなかったので良かった。

・表彰直後で、花束贈呈の時間があると良かった。

・写真撮影の時間だけでも欲しかった。（表彰式中で）

・インカレ特有の熱気が無くなって、普通の表彰式になってしまうのもつまらない。

②シード選手パネルに関するアンケート結果。

・やりたい人がやれば良い。

・何のためのパネルかわからない。

・見せるタイミングが開会式しかないのが残念。

・面白かった。

③シード選手紹介に関するアンケート結果。

・何のためのシード選手紹介なのかわからない。

・動画は良かった。

・負担を感じるのは事実だが、大会づくりに一役買っているならやめるべきではない。

・シード選手になることでインカレに向けて準備する時間を削られることが不満。

・寸劇は無くても良い。

ー議論の概要ー

上記①から③のアンケート結果に関して、幹事会として対応すべきかことがあるか検討した。

ー議論内容と結論ー

①インカレ表彰式短縮に関するアンケート結果をどう感じるか。改善すべき点はあるか。

［個人の意見］

・「お菓子を突っ込むパフォーマンスが無かったのが大きいと思う。ポジティブな意見もネ

ガティブな意見もある。」（幹事長 五味）
・「表彰される側としては、このままで良い。しかし、学連で強制的に（そのようなパフォーマンスを）排除するべきだろうか。」（副幹事長 村瀬）
・「実行委員としては、お菓子を突っ込むパフォーマンスは負担であるか。」（幹事長 五味）
・「負担というより危険であるし、ごみ問題もある。実行委員会としてはリスクの方が大きいと判断した。中枢部ではないから明確なことは言えないが、インカレの表彰式の中でそういったパフォーマンスが重要な部分は占めていないという判断だろう。パフォーマンスをどうしても復活したいならば、（リスク面に対する）対策を学生が説得力を持って提示できないといけない。無いとつまらないといったことは説得力のない意見。」（理事 齋藤）
・「お菓子を突っ込むパフォーマンスは幹事会として禁止とすることはできる。禁止の方向で良いか。」（幹事長 五味）→賛成多数。
・「表彰台でこのようなことを禁止しても良いが、インカレ感を味わえる場所を用意するのも良い。」（渉外部 橋場）
・「ただ禁止にして無くすのではなく、他のものを加えるべきか。今後、花束贈呈を行うかどうかという話も問題になると思う。」（幹事長 五味）
・「花束贈呈などは、多数で行うことが危険につながるのでは。特定の人が行うことにすれば良いのではないか。」（関東学連幹事長 小泉）
・「各大学で花束贈呈の人を用意すれば良い。」（会計 大久保）
・「1 年間あるので、先延ばしということではないが、何か良い案が思いついたら実行委員に伝えるのでも良い。」（理事 齋藤）
・「表彰式の演出は学生が行っても良い。満足度が高くなるのであればその方が良い。申し送りは自分が行うので、幹事会の中で出てきたことはまとめて実行委員会に申し送りしてほしい。」（理事 海老）

［幹事会としての結論］
表彰式においてお菓子を突っ込むパフォーマンスは幹事会としては禁止の方針であるということを実行委員会に申し送りする。また、他に幹事会で出た案はまとめて実行委員会に申し送りを行う。

②シード選手パネルに関するアンケート結果をどう感じるか。改善すべき点はあるか。
［個人の意見］
・「パネルに関しては何とも言い難い結果、（選手が良く思っているのか悪く思っているのかは）五分五分のように感じる。何のためのパネルかという意見もある。」（幹事長 五味）
・「パネルはシード選手の宣伝のためのもの。」（広報部 高橋）
・「大会を盛り上げるためのものなので、無くても良いという意見ならばなくしても良いと

は思う。」（理事 齋藤）
・「パネルについてはそこまで負担にはなっていないと思う。」（幹事長 五味）

［幹事会としての結論］
シード選手パネルについてはそこまで負担になっていないとの判断から、幹事会としては特に改善策等は出なかった。

③シード選手紹介に対するアンケート結果をどう感じるか。改善すべき点はあるか。
［個人の意見］
・「負担を強いている現状が明らか。負担を強いるべきではないと思う。」（幹事長 五味）
・「選手紹介の持ち時間を使い切ろうとして負担になっている。」（会計 大久保）
・「持ち時間を使い切る必要はないのでは。」（関東学連幹事長 小泉）
・「オーソドックスにインタビューだけという形もあり。それならばほとんど準備もいらない。昔は選手が活躍したときの写真のスライドショー等もあった。簡単にやればいいとは思うが。」（技術委員長 大西）
・「現状持ち時間は事業部から割り当てられていて、使い方は本当に自由。持ち時間は最大何分という形にすることもできる。事業部のほうから依頼する表現を変えるだけで変わると思う。」（理事 齋藤）
・「実際今回は事業部の方から、ムービーやパフォーマンスが負担であればすべての時間をインタビューに変えることができるという選択肢も提示されてはいる。」（幹事長 五味）
・「紹介の時間自体を変えるのはどうか。」（渉外部 橋場）
・「他の人が面白いことをやっているので、自分も面白いことをしなければいけないという縛りも感じる。選択肢として、例えばインタビューだけでもいいと言われても現実的にその選択肢を選べないということがある。風潮が残り続けるのであれば、（実際に持ち時間を自由に使いづらいといった）負担は減らないのではと思う。」（幹事長 五味）
・「選手紹介のムービーは良いと思うが、寸劇などの部分は実際必要か疑問。」
（会計 大久保）
・「選手紹介とムービーとインタビュー等と指定してしまってもいいと思う。」
（会計監査 田中（基））
・「逆にムービーが負担という人もいる。」（理事 齋藤）
・「シード選手紹介の演出自体は加盟員に与える影響は大きい。（意義はある）」
（会計監査 田中（基））
・「ムービーが負担ならそれに代わる何かを考えれば良い。」（広報部 高橋）
・「幹事会の方からどのようなパフォーマンスをしてくれと依頼するのもおかしい気がする。選手間で話を合わせて（無理におもしろいことをしなくても良い等の）雰囲気をつくり、事業部の方からも（選手に負担をかけない）案を出していけばいいとは思う。時間につ

いては幹事会の方針は作れる。」（幹事長　五味）

［幹事会としての結論］
事業部がシード選手紹介の依頼をする際に、選手に負担を強いないような文言にするよう配慮する。シード選手間で、シード選手紹介において何を行うか等の話を合わせることで、選手に負担を強いない雰囲気を作ることは可能である。

7. 目安箱について
ー背景ー 幹事会で取り上げることが難しい加盟員の直接の意見を集めるため、目安箱の設置が 2014 年度第 3 回幹事会で決定された。実際に 2014 年度インカレミドルで使用を試みたものの周知されず、機能していないのが現状である。 ー議論の概要ー 目安箱について改善する点があるか検討した。実際には、目安箱に限らず、学連に対する加盟員のレスポンスを良くする方法についての検討を主に行った。
ー議論内容と結論ー ①目安箱の改善点があるか。 ［個人の意見］ ・「目安箱に関しては、どこに設置してあるかという明記が無いのでは。プログラム等に書くのが良い。」（会計 大久保） ・「名相大会でプログラムに目安箱の記載をするべき。」（幹事長 五味） ［幹事会としての結論］ 目安箱を置く後援大会では、目安箱がどこにどのように設置してあるかプログラムに明記する。直近の名相大会のプログラムに記載する。
②加盟員の直接の意見を集めるにはどうしたら良いか。 ［個人の意見］ ・「事務局に直接メールするのが何か意見がある人には便利という意見を聞いた。目安箱と事務局のメールアドレスの存在の両方の周知が必要。」（会計 大久保） ・「事務局に直接メールすることはハードルが高い。」（会計監査 田中(基)） ・「気軽に意見を言うには日本学連の twitter に返信するのが楽では。」（副幹事長 村瀬） ・「目安箱や twitter のようにフランクに意見を言える場を設けて加盟員の反応を高めると共に、総会における意見などオフィシャルなものに対する反応度も高めたい。」（幹事長 五味） ・「まずフランクな意見を集める方法はあるか。」（幹事長 五味） ・「HP で質問受付専用アドレスを作るのも良いのでは。」（広報部 高橋） ・「twitter 上で議題に対する意見を集めるのはどうか。」（会計 大久保） ・「ふざけない程度は大事。」（幹事長 五味） ・「twitter を使わない人との格差が生まれるかもしれない。twitter が先になるのは良くない。公表された情報についてツイートするのならば良い。」（副幹事長 村瀬）

・「ひとまず twitter などを試してみて反応を見るのはどうか。」（会計 大久保）
・「オフィシャルな意見を集める方法はあるか。総会への意識が低いように感じる。」（幹事長 五味）
・「学連のことをまだ良く知らない 2 年生が渉外をやっていることに無理がある。よくわからない人には噛み砕いて説明することも必要。」（会計監査 田中(基)）
・「地区学連の幹事長が渉外に働きかけることはありではないか。」（関東学連幹事長 小泉）
・「噛み砕く人がいないと議論は始まらないだろう。しかし、呼びかけをすれば反応の率は増えるだろうか。」（幹事長 五味）
・「リプライを得るには、それ相応の投げかけが必要。例えば噛み砕くにしても、今話している議題が加盟員に与える影響のところまで説明してあげて、当事者意識を持たせることが大事。そうすればリプライも増えるだろう。」（渉外部 橋場）
・「地区学連幹事長が、議題について噛み砕き、議題が加盟員に与える影響まで踏み込んで渉外に説明するべき。」（幹事長 五味）

［幹事会としての結論］
加盟員からのフランクな意見を集めるために、目安箱や質問受付アドレス、twitter などをアピールする。加盟員の反応を見て、反応が無いようであれば次回幹事会でも考える。総会でのオフィシャルな意見を募る場合、各地区学連幹事長が渉外向けに議題を流す時に、議題について噛み砕いて説明する。各議題が加盟員に与える影響まで踏み込んだ説明を心がける。

8.インカレミドル競技者配分規約の作成
ー背景ー 2014年度第62回日本学連総会においてインカレミドルBエリートの廃止が決定された。選手権の部出走者数は男子60人、女子30人とする案が可決されたが、初年度の競技者分配方法が未決定のままとなっている。 ー議論の概要ー 技術委員長が下記①,②の競技者配分規約案を提示し、それぞれについて検討した上で競技者配分を決定した。 ー競技者配分規約案ー ①男子は(現行の)A決勝の半分25枠を基にして初年度の競技者配分を行い、競技者数60人に満たない分を調整する。女子は(現行の)A決勝の半分10枠を基にして初年度の競技者配分を行い、競技者数30人に満たない分を調整する。 ②男子は(現行の)A決勝の半分(25人)とB決勝の上位5人を合わせた30枠を基にして初年度の競技者配分を行う。女子は(現行の)A決勝の半分(10人)とB決勝の上位5人を合わせた15枠を基にして、初年度の競技者分配を行う。
ー議論の内容と結論ー 2つの競技者配分案に関して何か意見はあるか。 ［個人の意見］ ・「女子に関して①案は、A決勝の半分の10枠だけで配分を行うと比率が極端になる可能性が高い。B決勝を枠に含めた②案が良いと思う。また、女子20人中15位まで取る配分方法も考えられるがそれは枠とは言えないので相応しくない。」(技術委員長 大西) ・「男子に関して②案は、Bの1位よりAの26位が遅いのと言えるのかという疑問は出てくるだろう。」(幹事長 五味) ・「各案で配分を計算して極端に配分されていない方を選択するのはあり。」 (技術委員長 大西) ・「配分結果を出して比べたら、(決議の際に)自身に都合のよい案を選択してしまう可能性があるだろう。」(理事 海老) ・「配分計算の結果が出ないうちに多数決を取った方が良いかもしれない。」 (技術委員長 大西) ・「規則なので総会での承認が必要か。」(幹事長 五味) ・「今年だけなので規約ではない。幹事会で承認して、どのような競技者配分にするか暫定案という形で示せば良い。総会の決議はいらない。」(理事 海老) ・「幹事で多数決を取る形とする。各地区学連の実力を反映しているのがどちらの案かとい

うことを考えて決めてほしい。」（技術委員長 大西）
・「男子はBを使っても良さそうだが、女子のBはどうだろうか。」（幹事長 五味）
・「Bを使った方が学連でセレクションが厳しかったところを拾えて良いのでは。」（副幹事長 村瀬）
・「（今までの議論を勘案して）Bの上位を含める案で良いか。」（技術委員長 大西）
→全会一致で賛成

［幹事会としての結論］
幹事会の承認により、初年度の競技者配分方法として②案が採用された。但し、②案は今年度のみの暫定案である。暫定案は技術委員が作成する。

9. インカレロングの競技者数について
ー背景ー 現在、インカレスプリント・インカレミドル選手権の部の競技者数は男子 60 人、女子 30 人であり、加盟員の男女比率及びインカレ参加者の男女比率がその根拠となっている。一方、インカレロング選手権の部の競技者数のみ男子 60 人、女子 40 人となっている。 ー議論の概要ー 現行のインカレロング選手権の部の競技者数が妥当であるか検討した。
ー議論の内容と結論ー 現行のインカレロング選手権の部の競技者数は妥当であるか。 ［個人の意見］ ・「ロングの方が長い距離になって厳しくなるので、争える人数はミドルより限られてくる。女子ロングの人数はミドルより多いが、この現状は適正だろうか。」（技術委員長 大西） ・「以前幹事会でミドルの競技者数を決定する際、ミドルの競技者数をロングの 60:40 の比率に合わせる案もあったが却下された。これは現行のロングの競技者数が否定されたと考えて良いので 60:30 として統一すべきではないか。」（幹事長 五味） ・「女子をいきなり 10 人減らして抵抗はないだろうか。」（広報部 高橋） ・「女子ロング選手権では上位・下位層の競技結果に差がある。（だから、競技性を考慮して女子 30 人とするのは悪くはない。）」（技術委員長 大西） ・「そもそも前回の議事録では、ロング競技者数に関してはアンケートを取るということになっていた。」（渉外部 橋場） ・「今回の幹事会で決定しなければならないということではない。今回の幹事会で突然 60:30 を決定するのではなく、加盟員に 60:30 案を提示し、次回幹事会までの反応をみるという形でどうか。総会で決を取る必要もあるので。」（技術委員長 大西） ・「各大学の渉外が次の幹事会に間に合うように意見をまとめ、提出するという形にしたい。特に何も無ければ今年度ロングの際の総会で 60:30 の決を取りたい。渉外に意見提出を求める際には、噛み砕いた説明を心がける。」（幹事長 五味） ・「twitter 等でロング競技者数に関しての議題を周知した方が良い。」（広報部 高橋） ［幹事会としての結論］ 女子ロング選手権の競技者数を 40 人から 30 人に削減する案が出された。今回の幹事会では競技者数削減案（男 60:女 30 案）の決議は行わず、次回幹事会までに 60:30 案に対する意見を各大学から集めることにした。特に反対意見等が無ければ次回総会で 60:30 案の決議を行う。各大学に意見を募る際には、噛み砕いた分かりやすい説明をするように心がける。

10. インカレ一般クラスの棲み分けについて
ー背景ー 2014 年度第 4 回幹事会においてインカレミドル B エリート廃止の議論を行った際、学生のモチベーション維持のためにインカレ一般クラス A,B の棲み分けが必要であるとの合意に至った。 ー棲み分けの具体的内容と目的ー 学生の競技レベルに応じて、適切に A,B 各クラスに配分することで本来の一般 A クラスに相応しいレベルを担保する。B エリート層のモチベーション維持を図り且つ、一般 A クラスが易しすぎるという不満を解消することを目的とする。 ー議論の概要ー 一般クラス A,B の棲み分けのために幹事長が作成した「一般クラス出走ガイドライン案(2)」に関して、意見と疑問点について検討した後、ガイドラインの具体的内容を検討した。
ー議論の内容と結論ー ①ガイドラインに関する意見及び疑問点。 ［個人の意見］ ・「ミドルに関して、今年度から B エリートが無くなり一般 A クラスに昨年度より多くの人が集まる。実行委員会の立場としては一般 B クラスに人が分散すると負担が重くならずに済むので、ガイドラインを作ってもらえると助かる。但し、B エリートレベルの学生が一般 A クラスに流れるため、クラスの振り分けは考えた方が良い。」（理事 海老） ・「一般 A クラスが易しすぎるという意見はどこから出てきて、どのくらい多くの人から言われているのか。」（渉外部 橋場） ・「明確なアンケート結果があるわけではないが、そのような意見が幹事を通して上がってきたので幹事会の方で抽出した。」（幹事長 五味） ・「大多数の意見ではなく個人の意見に近いが、大学の意見で一般 A クラスが易しすぎるという意見があったと思う。」（技術委員長 大西） ・「千葉大が一般上級クラスを作ってほしいという案を出した。」（事務局 新粥） ・「B エリートで担保していたレベルを維持したコースを作ってほしいといった意見は他の意見からもくみ取れる。」（幹事長 五味） ・「コース・クラスの要望については運営側の裁量によるので反映されるかはわからない。実行委員会に対して、学生の意見を申し送りすることは可能。」（技術委員長 大西） ・「B エリートレベルの層と一般 A クラス上位層に対して A クラスを設けて、順に B,C クラスを設けることはできるかもしれない。」（理事 海老）

［総括］
一般Aクラスが易しすぎるといった意見や難しい一般のコースを作ってほしいという意見が各大学の意見から汲み取れ、学生の意見を反映し且つBエリート廃止を考慮したクラス分け方法について考える必要がある。どの程度反映されるかはわからないが、実行委員会の方に学生の要望を申し送りすることが可能である。

②Aクラス出走の具体的目安をどうするか。
［個人の意見］
・「(案にある)セレクションレースを完走できない人はBクラスを走ってもらう、というのは基準になるのだろうか。」(関西学連幹事長 松浦)
・「セレクションは地区学連に委ねているので統一した基準にはならない。」(幹事長 五味)
・「北東学連の夏のセレクションに関して、毎年男子の完走者の割合は5割を切っている。(だから基準として使うべきではないのでは)」(普及部 細)
・「最終的には選手自身がどのクラスを走りたいかということによってクラスは決まってしまう。(目安の効果は薄いのではないか)」(技術委員長 大西)
・「どのコースを走るかは最終的に選手に委ねるが、もちろん一般Aクラスを走るという流れは違うということを伝えたい。」(幹事長 五味)
・「今年度東海インカレではMAクラスが新設されたが、名大は全員MEで申し込んだ。何もガイドラインが無いとこのようなことになるので、何かしらの目安は必要。」(東海学連幹事長 石山)
・「目安・基準は難しいが、トップが各学連で同程度であれば、セレクションのトップタイムの150%以上の人はなるべくBクラスといったような指針は出せる。強要はできないが。女子は学連で差が激しいので何とも言えない。」(技術委員長 大西)
・「トップタイムは一般Aクラストップ(セレクションボーダー)に合わせるべき。エリートトップの150%ならばそもそもセレクションに通るとも思われるので。」(幹事長 五味)
・「緩くしてレーストップの200%だと規則的にも妥当性はある。」(副会長 山川)
・「昨年度関東ミドルセレMs1クラスで、トップ150%は大体34位くらいまで入る。トップ150%は割とちょうど良いのでは。」(関東学連幹事長 小泉)
・「そのMs1クラスの例だと、100人くらい出走していて34人以外Bになる。これは多すぎてまずいと思う。」(幹事長 五味)
・「あくまで目安であるので。150%より遅くても良いからそこまでまずくはないと思う。」(関東学連幹事長 小泉)
・「コースのレベルを保証するのであればそのくらいであってもいい気はする。」(副幹事長 村瀬)
→トップ150%の案は賛否両論あり
・「地区学連によって(レベルの分布等が)異なるので、出走目安は各地区学連で決めたらど

うか。この方が現状を反映できそう。」(渉外部 橋場)
・「人が多いともめる。決めるのに時間がかかりそう。」(事務局 新粥)
・「地区に決めてもらうにせよ、幹事会の方針は出さないといけない。」(幹事長 五味)
・「このような人にBを走ってもらいたい、といった風に大体の目安だけを出すだけではだめなのか。」(渉外部 橋場)
・「たとえば大体の目安を、中級者はBクラスのようにしてしまうと地区に丸投げする形になるので、具体的な目安を提示する必要がある。具体的な目安を数値(トップとのタイム比等)とすることに対して意見はあるか。」
・「昨年度の東海学連のセレクションで考えると、トップ150%以内はBエリート層すら全員拾えない。数値を基準にすることには反対。」(東海学連幹事長 石山)
・「自分の大学(筑波大学)としては、数値が無くともガイドラインを部員に説明して納得させられる。他大学でも渉外がきちんと説明すれば部員は納得すると思う。だから数値を設ける必要はないと思う。」(会計監査 田中(基))
・「学連側から提示された数値を見れば自分のレベルが客観的にわかり、加盟員を納得させることに繋がる。但しロングとミドルで数値を変えるべき。」(関東学連幹事長 小泉)
・「数値などの提示が無く、自分のレベルにあったコースを選んで下さいと言われただけでは加盟員は自分の問題として見ないと思う。当事者意識を持たせるためにも数値の提示は必要だと思う。」(副幹事長 村瀬)
・「数値を出した方が各地区学連で調整しやすいとは思う。」(事務局 新粥)
・「数値を提示して、なおかつこの数値の背景にはこのような意図がある、といった風に説明を加えれば良い。」(会計監査 田中(基))
・「ただ単に数字としてだけ見ないでほしいということを伝えれば良い。総括するとガイドラインには数値を記載した方が良いという方針だか異論は無いか。」(幹事長 五味)
→賛成多数
・「今までの案では、トップ比 150%,200%,ボーダー比(セレクションを通らなかった人のトップ比)150%の3案がある。個人的には、トップ比150%は厳しい時があると思う。みんなにBを勧めるガイドラインではないと思うし、一般Aクラスの出走基準を決めるのに一般Aクラストップを基準にする方が妥当。ボーダー比150%で良いか。」(幹事長 五味)
→賛成多数
・「関門を設け、完走率の低い北東のロングに関してボーダー比150%は反対。」(普及部 細)
・「北東のように特性の強いセレクションについてはローカルルールを用いればよい。」(副会長 山川)

[幹事会としての結論]
一般Aクラス出走の目安はセレクションのボーダー比150%とし、ガイドラインに記載する。数値はあくまで目安であるので、各地区学連で変更可能という記載もする。

③どうやってＢクラスへ誘導するか。

［個人の意見］

・「同じクラスへ固まる要因は同期と一緒に走りたいという気持ちもあると思う。まとまった人数をＢクラスに引き寄せる方策が必要。」（渉外部 橋場）

・「1 年生は自分のレベルを知らないので、オリエンテーリングになれていない人も単純に同期と走るために難しいコースを選択してしまうことがあると思う。自分のレベルを知る機会が必要。」（幹事長 五味）

・「申し込みの際にレベルが合わなさそうな人にレベルを下げるように呼びかけてみても効果が無かったことがある。呼びかけで簡単にＢに移るものなのか疑問。」（副幹事長 村瀬）

・「実際一般Ａクラスがなめられている感じがある。所詮Ａクラスは大したことがないというイメージがあると思う。」（事務局 新粥）

・「難しい一般Ａクラスを作って敬遠させるのも手かもしれない。」（幹事長 五味）

・「対象にしているレベルを明確に書いた上でレベル上げるのが良い。」（理事 海老）

・「一般Ｂクラスは下位層が走り切れるレベルにするか。」（技術委員長 大西）

・「一般Ｂクラスが簡単だから一般Ａクラスに出たい人もいる。」（関西学連幹事長 松浦）

・「受け皿としての一般Ｂクラスの意味も大事だが、一般Ｂクラスも難易度を上げないと人は集まらない。」（幹事長 五味）

［幹事会としての結論］

ガイドラインに一般Ａクラスを難しくする旨と一般Ａクラスの対象レベルを明記し、一般Ａクラスのコースの難易度を引き上げる。一般Ｂクラスについても少し難易度を上げる。一般Ａクラスを難しくすることに関してはよく周知を行う。

④ガイドラインをいつまでに出すか。

［個人の意見］

・「ガイドラインはロングの時に公表できるくらいが良い。その際、各大学渉外に今年度の方針を伝えるようにする。」（会計監査 田中(基)）

・「9 月の幹事会で検討し、総会には発表しないといけない。」（副会長 山川）

・「ガイドラインは総会での決議は必要ない。次の幹事会までに大枠を固めて、ロングの時の総会で各加盟校に周知を行う。ロング後からミドルのエントリーまでの期間で加盟員に全力で周知するべき。」（幹事長 五味）

・「実際に目につくので、ミドルの要項に載せてもらうのはどうか。」（副幹事長 村瀬）

・「広報・周知した内容がどこまで加盟員に伝わっているかはつかみ切れていないことは問題。広報・周知の仕方は考えないといけない。」（幹事長 五味）

・「渉外が確実に各校加盟員に向けてガイドラインを送ったとしても、個人にしっかり周知されているかは確かではない。申し込みの時に、一般Ｂレベル層の実力の個人が一般Ａク

ラスに参加しようとする際には、各大学渉外ガイドラインのことを話してクラス変更の念押しを行えば良い。」（関東学連幹事長 小泉）

［幹事会としての結論］
ガイドラインは今年度インカレミドルから適用する。次回日本学連総会において各加盟校に対してガイドラインの周知を行う。さらに、インカレミドルのエントリー開始までに各加盟員に対してガイドラインの広報を十分に行う。インカレミドル申し込みの際は、各大学渉外が各個人のクラスについて把握し、必要ならクラス変更の念押しを行う。

(2)「一般クラス出走ガイドライン案」: 幹事長がA,Bクラスの棲み分けのために作成した。一般Bクラスレベル相当の学生にBクラスを走るように促すことを主な目的とするガイドライン(案)。次の3つの項目から構成される。
(a) A,B各クラスのレベルの説明 (A,B各クラスはどのレベルの学生を対象とするか)
(b) Aクラス出走の具体的目安
(c) クラスの棲み分けが行われないことで生じる弊害
詳しくは2015年度第1回幹事会資料を参照。

11.昨年度決算報告（担当 会計 大久保）
ー報告内容ー 2014年度日本学連会計決算について報告した。 ー留意点ー ・決算報告資料では、一昨年度未清算分(黄色の網掛け部分)を交ぜて計上している。 ・幹事会交通費・宿泊費が予算を大幅に上回ったことに関して、第2回幹事会を宿泊費の高い場所で開いたこと、臨時幹事会を開いたこと、後半2回の幹事会で新幹事が加わり人数が多くなったことが原因として挙げられる。 ・加盟金を下げてもこの程度の赤字で済んだのでそこまで悪くはない。 ・現在、留保金は250万円程度。総資産は今回の赤字分だけ微減した。 ・事務局の光熱費・電話代に関して、不要な部分の供給を停止する手続きをとったため、今年度決算から光熱費・電話代は削減される予定。 ー議論の概要ー 決算報告についての疑問点、改善点が無いかどうか検討した。
ー議論の内容ー ①決算報告について疑問点はあるか。 ・「インカレ広告費とは何か。」(広報部 高橋) 回答:ファミテックの広告費。ファミテックからの寄付金に対して学連から広告を出した。 ・「昨年度ロングの決算報告は受け取ったか。」(副会長 山川) 回答:受け取った。昨年度スプリントが赤字であったが、ロングの黒字と相殺して全体として黒字。その分を黒字返金として計上している。 ②決算報告について改善点はあるか。 ・「総資産の変化が見て分かるようにしてほしい。今のままだと不明金が無いかどうか、数値があっているかどうかが不明確。」(技術委員長 大西) 対応: 総会では、年度における総資産の変化が分かる決算報告資料を提示する。

12.広報部局員の配置について
ー背景ー 現在、日本学連ホームページ上には改修の必要な箇所が多く、ホームページ管理担当者として広報部局員を設置することが提案された。広報部局員設置の承認は「日本学生オリエンテーリング連盟幹事会及び事務機構に関する規則」第 11 条第 2 項に基づく。 ー議論の概要ー 広報部局員の設置について幹事会の承認を取った。また同時に、事務局員の設置についても幹事会の承認が取られた。
ー結論ー 日本学連広報部長前任 高橋秀明氏を 2015 年度日本学連広報部局員とすることを承認した。 早稲田大学 2 年友田雅大氏、日本女子大学 2 年吉澤佳奈氏を 2015 年度日本学連事務局員とすることを承認した。

13. 活動報告書「日本学生オリエンテーリング連盟概説」について（担当 広報部 高橋）
ー背景ー 日本学生オリエンテーリング連盟活動報告書の冒頭に日本学連の歴史等を掲載した「日本学生オリエンテーリング連盟概説」のページがあるが、本文内容には 2005 年までの歴史しか反映されていない。 ー提案の内容ー 「日本学生オリエンテーリング連盟概説」の 2006 年以降の記事を執筆することが広報部より提案された。
ー結論ー 「日本学生オリエンテーリング連盟概説」の 2006 年以降の記事を執筆することに決定した。また、副会長山川氏、理事木村氏,齋藤氏,海老氏、技術委員長大西氏に執筆を依頼することに決定した。

14. 技術委員会報告（担当 技術委員長 大西）
ー報告内容ー ・4 月から海外遠征補助について JOA と話を行っている。恐らく今年度も JOA の事業として(海外遠征補助が)ある予定。 ・来年度ユニバーシアードが 7 月 31 日から 8 月 4 日の期間ハンガリーで行われることに決定。要項や選考方法についてはロングまでに出したいと考えている。 ・学連合宿については日程の調整が難しいが、9 月 5,6 日あたりの開催を考えている。八ヶ岳で開催すればロング対策として需要があると考えているが、八ヶ岳レジャーセンターが一杯ということなので検討中ということでお願いしたい。

15. 理事会報告（担当 理事 海老）
ー報告内容ー インカレミドル・リレーに関して現状の問題点を指摘し、今後の開催方針及び理事会の活動方針を報告した。また、幹事会への要望も出された。 ー問題点ー ・インカレミドル・リレーが終わり、その都度実行委員会を立ち上げるといった形で 1 年ごとに場当たり的に開催しているのが実情。実質 9 か月程度での準備のため無理が生じている。 ・インカレテレイン選定の意思決定機関が存在しない。 ・インカレミドル運営に際して、毎年実行委員会任せとなる事案が存在する。（不泊のインカレ参加者への対応等） ー今後のインカレミドル・リレー開催方針ー ・4 年の周期で関東・東海・関西等のテレインを順に回して使用する。運営負担の少ない関東テレインを今年度インカレミドル・リレーの開催地とし、準備する一方、来年度インカレミドル・リレーの下準備を別地域で行う形を目指す。常に 2 つのインカレ実行委員会の立ち上げを目指す。(2 年間準備の場合、実行委員会立ち上げまでは担当理事の責任下での活動） ー今後の理事会の活動方針ー ・テレインコントロールワーキンググループ(TCWG)(3)の再構築を行い、インカレテレイン選定の意思決定を明確にする。 ・実行委員会任せとなっている事案について、明文化した統一的な判断基準を設ける。 ・インカレミドル・リレーに関する加盟員の意見を整理し、解決する。

ー幹事会への要望ー
インカレミドル・リレーに関する加盟員の意見を理事につないでほしい。

(3) テレインコントロールワーキンググループ (TCWG) :インカレのためのリザーブ・クローズテレインの選定に関わる機関。実質的に動いている役員が一部となった実態に即して、2013 年 3 月をもってTCWG の活動が無期限休止となった。

16. 各部局活動報告
会計 （大久保）
ー活動内容ー ・決算報告資料の作成 ・昨年度地図清算 ・今年度事務局家賃の支払い
広報部 （田中（悠））
ー活動内容ー ・学連 HP 更新 ・twitter 管理 ・学連渉外メーリングリスト登録
事業部（築地）
ー活動内容ー ・5 月 10 日 引継ぎ ・第 1 回幹事会とりまとめ
事務局 （新粥）
ー活動内容ー ・賛助会員受付の実施 ・幹事名簿の作成 ・加盟登録の案内 ・JOA への挨拶 ー後援申請ー 第 9 回名椙大会 第 35 回筑波大大会 第 9 回岩県大会 第 20 回京大京女大会 第 38 回東北大大会 第 1 回 KOLC 大会 千葉大大会 全て全会一致で承認。 岩県大会に関しては賛助会員への特典を決めるべきという指摘が挙がった。

京大京女大会に関しては具体的な額があった方が良いという指摘が挙がった。
千葉大大会に関しては開催回数の言及はなし。

ーその他報告事項ー
・今年度から、加盟登録が完了してから事務局と会計の方で各地区学連に加盟費を請求する形を取ることとする。学連から請求があるまでは振り込まないように各地区学連の会計に伝えてほしい。
・学連の後援申請が承認された大会に関しては、事務局の方でJOAの下部団体の対物保険に加入することになる。その他の大会についても申請すれば利用可能、周知をお願いしたい。
・賛助会員の和田様より、インカレにおいて遠方からの学生への配慮を求める意見をいただいた。

普及部　（細）

ー活動内容ー
・賛助会員募集資料の送付
・インカレ観戦ガイド報告書のまとめ

ーその他報告事項ー
・インカレロングの観戦ガイドが学連によって露骨な差が出ていたので統一感を出すように努める。
・インカレリレー順位予想について上位予想大学の意気込みを聞くコーナーを設ける予定。
・観戦ガイドを紙で欲しい要望が一定数あるがロングは開会式等が無いため Web のみの発行の予定。ミドルでは紙でも発行する予定。

渉外部　（橋場）

ー活動内容ー
・新歓期のため特になし。
・6 月第 3 週に矢板区長に挨拶回りを行う。

ーその他報告事項ー（山川氏より）
・矢板の市議会議員から、多くの学生にオリエンテーリングに来てもらっているので市として取り上げたいとの連絡をいただいた。
・JOA 主催の日光ロゲイニング開催のために渉外活動が増える予定。

地区学連幹事長

ー活動内容ー
[北東学連（藤田)]
・6 月 7 日　北東学連総会開催予定

[北信越学連（田中（求））]
・3 月 9 日 引継ぎ
・4 月 5 日 第 31 回金沢大大会開催
・6 月 7 日 第 1 回北信越学連総会開催予定

[関東学連（小泉）]
・4 月 1 日 関東学連総会開催
・5 月 23 日 関東学連臨時総会開催
・5 月 24 日 ペア O 大会開催
・6 月 21 日 関東学連ロングセレクション兼関東インカレ開催予定

ーその他報告事項ー
・2 レーン制導入のためロングセレクションの規約を修正中。
・スプリントセレクションの規約を作成中。

[東海学連（石山）]
・5 月 23 日 東海学連加盟校合同新歓行事開催
・6 月 20 日 東海学連スプリントセレクション開催予定
・6 月 21 日 東海学連ロングセレクション開催予定
・8 月 22, 23 日 東海学連主催夏合宿開催予定
・同日 第 1 回東海学連総会開催予定

[関西学連（松浦）]
・4 月 26 日 学連主催新歓行事開催
・同日 第 1 回関西学連総会開催
・5 月 17 日 第 1 回定例戦開催
・5 月 23, 24 日 関西学連主催新歓合宿開催
・6 月 21 日 関西学連ロングセレクション兼関西インカレ開催予定
・7 月 5 日 関西学連スプリントセレクション開催予定

[中四国学連（下江）]（文面による報告のみ）
・今後幹事長下江氏として幹事会に参加する予定。（中四国学連加盟員に確認し了承済み）
・現在加盟校は広島大学，岡山大学の 2 校。加盟員は広島大学 5 名，岡山大学 1 名の計 6 名。
・幹事会として中四国学連をサポートしていく。

17. 次回幹事会について
ー開催日ー 9 月 22 日（筑波大大会前日） ー開催地ー 茨城県